

チーム員からの一言

和顔・愛語



中岡 典子

仏教の教えの中に「無財七施」があります。「お金がなくても、たくさんの施をすることができます。」という教えです。その七施の中に、「和顔施」「愛語施」があります。子育てにおいて、和顔(和やかな笑顔)、愛語(優しいことばかけ)はとても大切な施です。

子どもがお手伝いをした時「ありがとう。とても助かったよ。」と言えば、子どもは、自分が役に立った喜びと自己有能感で心を満たすことでしょう。

子どもが落ち込んでいる時「大丈夫、私が付いているよ。」と笑顔で抱き締めてやれば、安心して立ち直っていくでしょう。

多額の教育費をかけなくても、親がほんの少し和顔や愛語に心がければ、子どもは自らの力で生きる力を伸ばしていくに違いありません。

子育ては史上最高の神事(かみごと)である



玉井 俊幸

子育ては35億年の壮大な歴史を紡いできた地球上の生き物の命のバトンタッチである、と断言できる。子を生み育てることの尊さと喜びはこれに勝るものはない。ちなみに一人の子が生まれる確率は総体的にいえば、驚くなけれ36億分の1なのだそうだ。それ故に生まれ来た小さな命を何で粗末にできようか。

35億年の昔、地球上の海に生き物が発生した。その生き物がいろいろな動物、草花、昆虫、魚、猿、人間などに分かれ今に至る。この壮大な地球の歴史に感動せずにはいられない。命を紡いで来た35億年の重さは地球よりも重いと云っても過言ではない。

ところで、女性が妊娠して10ヶ月で子どもを産む。その10ヶ月の間に何と子宮の中の命は35億年の地球の命を紡ぐのである。35億年前の海は子宮の羊水なのだ。鰓呼吸から肺呼吸になり、毛が生え、生まれてくる。10ヶ月で35億年のプロセスを辿るのである。子どもを産む、というこの神事を私たちはありがたくもうやうやく受け止めたいものだ。

私は子育て真最中の父親や母親に出くわす度に、言葉では言い尽くし難い崇高な感動を感じる。子育てについて皆さんと語り合った時、この私の気持ちが少しでも伝わったかなあ。毎日忙しくて…(正直なところでしょうね。)

(参考書 中村桂子著『科学技術時代の子ども達』 斎藤公子著『乳幼児期の子育て』)

家庭教育支援事業を顧みて



岩倉 泰子

家庭教育訪問学習会を市内(保・幼・小学校・公民館等)20会場で実施し、多数の保護者の皆様方にご参加いただきました。

どの会場におきましても、身近で具体的な話題の提供があり、それに基づいて、情報提供・情報交換・相談等を行う中で、子育てについて考え、互いに学び合いました。

子どもが育つことは、親が育つことです。特にきまり正しい親の生活態度が問われます。日ごろのありのままの親の言動や家庭の雰囲気、子どもの人格形成に目に見えない影響を与えるという機能があるのです。

さらに、こうした機会を通して、気軽に話し合えるお母さんたちの仲間が育ち、「支え・支えられてお互いさま」の関係が育っていくことに期待が寄せられます。

終わりにりましたが、ご協力いただきました伊予市教育委員会の皆様、各関係機関の皆様方に感謝申し上げます。

[伊予地域家庭教育情報誌] ほのぼの 第5号



佐礼谷小学校

子どもがすくすく育つ 三つのごはん

「子育てについて同じような悩みを持っている人がいるんだということを知り、気持ちが少し楽になりました。」(受講者の感想)

伊予地域家庭教育支援チームは、子育てに関するちょっとした不安や悩みをいっしょに考えるために「子育て学習会」や「相談」を各保育所、幼稚園、小学校などで実施してきました。

子どもたちに「生きる力」をつけるためには「三つのごはん」が必要です。「体のごはん」(毎日の食事)、「頭のごはん」(毎日の学習)、そして「心のごはん」(いろいろな体験と読書)を大切にしたい子育てを、家庭、地域社会、学校が協力して進めていきましょう。

上の写真は、「子育て学習会」の「読み聞かせ」で命の体験学習をしている様子です。

伊予地域家庭教育支援チーム

松山市北持田町132番地(中予教育事務所内) TEL 089-909-8780

家庭教育支援チーム

訪問 学習会

伊予地域家庭教育支援チームでは、4月以来、幼稚園や小学校などで子育て支援に関する訪問学習会をしてきました。少しは皆様の家庭教育のお役に立っているのではとひそかに思っています。今回は、1月以降にチームが行った訪問学習会のいくつかを紹介します。

伊予市子育て支援センター

● 1月19日(火) 10:00~11:00

「人間としての根っこを育てる」をテーマに、チーム員が次のような提言をしました。
①親子いっしょの体験の場をつくり、子どもの原体験を豊かにして、後伸びする力を育てよう。
②生活習慣が心の習慣をつくります。あいさつや早寝早起き朝ごはんの生活リズムを基本にした、笑いのある家庭をつくろう。
③子育ての極意は啖啄同時、子どもの心の動きに素早く反応し、生きる力を育もう。その後、保護者がグループになり、日ごろ子育てについて疑問に思ったり、悩んだりしていることについて話し合い、チーム員が助言しました。別室では、学習会に並行してチーム員が託児を行い、センターの保育士といっしょに玩具や絵本などを使って幼児と楽しく過ごしました。



からたち幼稚園

● 1月20日(水) 10:00~11:30

「ほめることと叱ること」についてチーム員が、ほめることは「アクセル」、叱ることは「ブレーキ」、どちらも子育ての基本である。特に、ほめるという行為は子どもを変える力が大きいだけに「子どもはほめて育てる」を基本に置きたい。留意したいことは、「子どもの心を傷つけない」ことであり、

「叱るべきときに納得できるように叱り、ほめるべきことをほめるべきときにほめる」ことに尽きる、と提言しました。その後、グループになり「この1週間で子どもをほめたり叱ったりしたこと」をテーマに話し合い、チーム員が助言しました。隣室では、チーム員が園児に読み聞かせをしたり、抱っこしたり、いっしょに遊んだりして託児をしました。

翠小学校

● 1月26日(火) 14:45~16:15

「望ましい社会性や生活習慣を育むために」をテーマに、チーム員がコーディネータとパネラーになり、それぞれの立場、経験から具体的な事例をもとに意見を述べました。子どもは親の宝であり、地域の宝です。また、地域の宝であるということは、社会全体の宝(原動力の種)だといえると思います。子どもたちの一生はこれから長いです。長い時間の出来事を短い言葉で命令したところで即、答えなんて返ってくるはずがありません。家族や地域の方々の深い愛情と信念を持った言葉で子どもたちのことをゆっくり育てていってあげたいものです。



佐礼谷小学校

● 1月27日(水) 14:30~15:30

学校保健委員会で「心や体の健康」について学習会をしました。事前のアンケート結果を参考にしてつくった資料を配布して、次のような内容で話し合いました。
①年齢別子育てのポイントについて。
②子どもは親の後ろ姿を見て育つ。
③子育てで大切なことは自己肯定感を育てること。
④規則正しい生活習慣が子どもの心と体にどのような働きをするのか。
⑤思春期の特に男の子の対応について。学習会と並行して図書室では、全校児童(24名)にチーム員が『いのちのおはなし』の童話を読んで、実際に聴診器を使って心音を聞き、命の大切さを話し合いました。



中山保育所

● 1月28日(木) 10:30~12:00

『だめ、デイビッド』を使って親子いっしょの読み聞かせをしました。物語が子どもの日常生活に身近なお話で、子どもたちはとても興味を持って、時には歓声を上げて熱心に聞きました。保護者も子どもの表情をしっかり見守っていました。読み聞かせの後、「子どもを伸ばす親になろう」のテーマのもと、チーム員が生活リズムをつけることの大切さや、楽しい団らんがあってこそ子どもの情緒は安定する、などの話をしました。その後、グループに分かれ、お互いの育児を振り返り、悩みを話し合ったり、共感しあったりするうちに、皆の表情がゆるんでいくのが印象的でした。



八坂小学校

● 2月4日(木) 14:00~15:00

チーム員が「6才児(就学前の子ども)をどう育てるか」に視点を当てて次のような提言をしました。
①外で自由に遊ばせて、「勘」を育てよう。体力が付き、がまんする力が育ち、友達とふれあう力も育ちます。
②家族そろってごはんを食べよう。知らず知らずのうちに自信がもてる子が育ち、共感性(人の思いをくむ力)が育ちます。
③朝食の内容によって、子どもの生活リズムが変わります。バランスのとれたメニューは早寝早起きの子どもを育てます。「手抜きのお食事」は「心抜きのお食事」につながります。

